

(様式2)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 6	学校名	宇都宮市立 石井 小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	--------------

令和6年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・教科に関する調査の領域別平均正答率を見ると、県・市の平均を上回っている学年とやや下回っている学年があり、学年によって多少の差が見られる。
- ・各教科の平均正答率を設問ごとに見ると、県・市の調査ともに記述式設問の平均正答率が低い傾向にあり、自分の考えを問題に合わせて的確に書く力が十分に身に付いているとは言えない。また、国語では、「読むこと」「書くこと」の領域の正答率が低く、算数では「データの活用」の領域の正答率が低いことから、内容を正しく理解し、それを踏まえて考えを深めていくことに課題が見られる。
- ・高い学力を示す児童が多数見られる一方で、身に付けた知識や技能を十分に発揮できない児童もあり、定着に個人差がある。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・市の調査結果では、「先生や友達の話をも、最後まできちんと聞いている。」という設問に肯定的な回答をした児童の割合が9割程度であるが、市の平均を下回っている学年もあるため、話の聞き方については継続して指導をする必要がある。
- ・市の調査の「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。」という設問では、肯定的に解答している児童の割合が低学年では9割と高いものの、中高学年ではおおむね7割程度となっており、学年間で差が見られる。
- ・市の調査の「授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」の設問に肯定的な回答をした児童の割合は大体8割程度で、市の平均を上回っている学年と、6割程度で市の平均を下回っている学年とがあり、学年間で差が見られる。
- ・市の調査の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」に肯定的に回答した児童の割合は、3～4年生において5～7割の学年がある。家庭学習への取り組み方や学習時間の確保についても指導していく必要がある。

(3) 授業等への取組状況から

- ・真面目な学習態度で、与えられた課題によく取り組むことができる。一方、自ら課題意識をもって学習に取り組むことができない児童も見られる。
- ・多くの児童が意欲的に授業に臨み、確かな学力を身に付けようと努力している。
- ・友達の意見を聞くことはできるが、自分の考えを進んで発表し、友達と考えを練り合いながら思考を深めていこうとすることに、やや消極的な傾向が見られる。
- ・家庭学習においては、宿題をきちんとやる習慣は身に付いているが、自分で計画を立てて学年に応じた自主学習に進んで取り組む態度は十分とは言えない。

2 今年度の重点目標

「認め合い、励まし合って、生き生きと輝く児童の育成～思いを伝え、深め合う道徳の授業を通して～」

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★， 「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）基礎・基本の確実な定着

- ★□ 朝の活動等を活用した漢字の読み書きや計算力などの基礎学力の定着(通年)
- ★□○話の聞き方，発表の仕方，思考過程が分かるノート指導など，基本的な学習態度の指導の充実(通年)
- ★□○毎時間の授業において身に付けさせたい力を明確にし，「目標やめあての設定」，「まとめ」「振り返り」の一貫性をもたせた授業づくり(通年)
- ★□○「宇都宮モデル」を活用し，新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践(通年)
- ★□ 「宮・未来キャリア・パスポート」の活用による学習活動の振り返りや自己評価の実施による児童のキャリア形成の指導(通年)
- ★□ 外国語科・外国語活動における児童の資質・能力の向上に向け，インタラクティブな英語によるやりとりを中心とした授業づくり(通年)
- 各教科で身に付けた学力や知識及び技能を生活科や総合的な学習を中心に教科横断的に活用することで資質・能力を育成することができるようなカリキュラム・マネジメントの充実(通年)

（2）学習指導の工夫・改善

- ★□ 学力調査・アンケートの結果分析に基づく指導の改善(4月・10月・12月)
- ★ 習熟度別学習・少人数学習等の工夫改善による効果的な学習指導の実施(通年)
- ★□ 一人一授業の実践により「自分の考えを伝え，深め合う児童を育成するための授業」に向けた授業改善(通年)
- ★□○互いのよさを生かしながら協働して課題に取り組む態度を養うための話し合い活動や意見交換など，学習形態の工夫・改善(通年)
- ★□○1人1台端末のICTを活用し，児童が主体的に学ぶ授業の実践(通年)
- ★ 各教科におけるプログラミング教育の実践を通じた論理的思考力の育成(通年)
- ★□○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫(通年)
- ★□ 児童が安心して互いに高め合える学級集団の育成(通年)

（3）読書活動の充実

- ★□ 朝の活動を利用した全校一斉の読書活動の実施(通年)
- ★□ 校内読書週間の実施(6・11月)
- ★□ 読み聞かせボランティアや教職員による読み聞かせの実施(通年)

（4）家庭・地域との連携・協力

- ★□ 家庭の協力を得た宿題や自主学習などの家庭学習の習慣化(通年)
- ★□ 家庭学習の時間確保・適切な内容選択のための「石井っ子の学習」「家庭学習のすすめ」「家庭学習の進め方」の効果的な活用・配付(通年)
- ★□ 人・自然・地域との関わりを通じた体験活動や読書活動の充実を図るための地域

協議会や学習ボランティアの協力を得た授業や学習支援の実施(通年)

- ★ 学校便りや学年便り，ホームページによる学習活動の様子などの積極的な配信(通年)

(5) 教職員の指導力の向上

- ★ 若手教員育成システムを活用した各教員の資質・能力の向上(通年)
- ★□ 全職員の授業力や学級経営力の向上にむけた校内授業研究会の実施(適宜)